

見ていなくても楽しもう

The Young Women's
Christian Association

YWCA

〈第33総会期主題聖句〉
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

10

〈ビジョン〉
女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にする社会

〈ミッション〉
若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉
キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

OCTOBER
2024

No.782

www.ywca.or.jp

『虎に翼』

100年の虎がたり

日本初の女性弁護士、のちに裁判官になった一人の女性の実話に基づく物語。
100年前のことなのに、観る者一人ひとりが「私のはなし」に重ねて共感した。
それぞれの想いを熱く語る「虎がたり」が続出し、放送が終わっても止まらない。
NHKの連続テレビ小説『虎に翼』——日本YWCA機関紙も多彩に語ってみた。

インタビュー

ドラマを楽しみ、世の中を考える

『虎に翼』制作統括 尾崎 裕和

憲法で読み解く 大切なメッセージ

弁護士 倉重 都

寅子も泳いだ！

東京YWCA 女性専用温水プールのはなし

戦後初の女性弁護士

渡辺道子とYWCA

高校教師の「虎がたり」



©NHK

『虎に翼』 制作統括インタビュー

ドラマとして楽しみつづ、 世の中のあり方を考えられたら

主人公の猪爪寅子^{ともしこ}は女性裁判官のパイオニア。彼女の一代記と思いきや、社会の縮図のような群像劇。現在に通じる社会問題やタブーとされがちなテーマにも踏み込む——制作陣「ただ者」ではなさそう。

『虎に翼』制作統括・尾崎裕和さんにインタビューを試みました。

——100年前が舞台なのに、今まさに問題になっているさまざまなテーマが盛り込まれ、特に女性から共感する声が聞かれます。こうした反響は当初から想定していましたか？

尾崎 最初から反響を狙ってドラマを作ることはありません。企画を決める段階で、脚本をお願いしようと考えていた吉田恵里香さんに相談するところ

からのスタートでした。吉田さんと題材を考えていくなかで、女性初の弁護士、判事、裁判所長となった三淵嘉子さんのことを知り、彼女をモデルに物語が作れないかと発想を膨らませていきました。法律を扱うので自ずと憲法や今日の社会の仕組みなど、結果的に現代にもつながるテーマについて考える作品になったという感じです。テーマ性のある内容ですので、ある程度のリアクションはあると予想できましたが、特に意図してはいません。

——男性の立場からはどう見られているのでしょうか？

尾崎 個人的には、明律大学法学部で寅子の同期となった轟や花岡に惹かれました。女性を差別するつもりはないのにはじめは寅子と対立してしまつた。それが次第に変化していく過程、あの時代の男性としての困難も描かれていて、とても興味深く見ていました。同

じように共感している男性の視聴者もいると思います。

——登場する男性たちは、柔軟性があります。実際に当時の男性たちが彼らのようであつたら、もう少し違う現代があり得たと思います。

尾崎 ドラマなので過去の出来事を100%再現するのではなく、時代考証をもとにしながらも、今の視聴者にも届くように、今を生きる吉田さんの視点で再解釈して作り上げることを意識しています。もちろん強権的で怖い父親を登場させることもできたと思いますが、逆に分かりやすすぎる。寅子の父・直言のように娘の将来に理解はあるけれど、どこかずれた面があったり、穂高先生のように寅子を応援する意識は変わらないけれども失言をして怒らせてしまつたり、やはり今の目線から見てもリアルな人間の二面性を意識的に描いている点は、吉田さんらし



©NHK

いなと思いました。

——男女平等、選択的夫婦別姓、同性婚や関東大震災での朝鮮人虐殺など、政治的なイシューになり得る問題にも果敢にチャレンジした印象があるのですが……。

尾崎 いろいろな意見があることは見聞きできています。ただドラマは放送されたものがすべてなので、寅子をはじめとする登場人物たちが、何を考え、どういう選択をしていくかという物語を通して、皆さんが考えていただくきっかけになればと思っています。もちろん、倫理的な表現上の配慮は必要です。制作統括は番組の責任者でもあるので、放送する時間帯と視聴者層を考慮した一定の線引きをする責任があります。

——個人的に思い入れのあるシーンがありますか？

尾崎 岡田将生さん演じる寅子の再婚相手となる航一が、総力戦研究所にいた過去を振り返るシーンです。

もともと開戦前の1941年、当時のエリートを集めて「日本はアメリカに負ける」というシミュレーション



©NHK



ンを行った総力戦研究所には興味があつて、なんらかの形で表現できたらと願っていました。三淵さんの再婚相手である乾太郎さんが総力戦研究所にいたという史実から、こういう形で表現できてよかったです。開戦前から結果が予想できていたのに、戦争に突入して負けてしまったというのは、日本という国のあり方や、組織のあるべき形を考えるうえで教訓になると思います。朝ドラで触れられたことには意義があつたのではないのでしょうか。

——「許す」というテーマが通底しているように思いました。

尾崎 確かに、「許す／許さない」は

テーマの一つとして描かれています。「簡単に許さない」「謝つたぐらいでは許されないことがある」「そんな簡単に人のことを許していいわけではない。絶対に譲つてはいけなことがある」

——怒りを我慢する必要がどこまであるのか、という切実な問いです。思っていることを内に秘めるのではなく、ちゃんと声に出そうという吉田さんなりのエールでもあると思います。逆に、それだけ言いたくても言えない人たちがたくさんいることの裏返しかもしれません。

——若者がテレビすら持っていない、映画も倍速で見るといふ時代状況のなかで、ドラマの作り方は変わっているのでしょうか？

尾崎 比較的、若い方にも見ていただいているというデータも手応えもあります。作り手側として意識しているとしたら15分の枠内で情報量は多い方が、見る人はより引きつけられるという点ぐらいでしょうか。密度の濃さが若い視聴者にとっても受け入れやすい要因になっているのかもしれない。

——現実の日本社会では、100年前から変わらなず、残り続けている課題も多いと思うのですが……。

尾崎 ドラマの冒頭で憲法第14条を読むシーンがあります。

「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」

当然、理想としては平等になった方がいいのですが、そもそも世の中は少しずつしか変わらないので、私たちが少しずつ変わることによって、よりポジティブな方向に変わっていくということだと思います。

——社会が変わっていくうえで、ドラマを含むエンターテインメントがもつ可能性についてはどうお考えですか？

尾崎 そもそもエンターテインメントと、何か考えさせられるテーマ性を別ものだとは思っていないくて、ある種のメッセージや自分が変わるきっかけになるような要素が含まれていることで、よりエンターテインメントとしての価値が上がる。ドラマとして楽しみつ

——今後の展望はありますか？

尾崎 やはり今、この時代に作ることに意味を考えながらドラマを作っていくと思います。ただ、朝ドラは少し長期間で疲れたので、しばらくはお休みしてから（笑）。

取材・文／松谷信司（キリスト新聞社）
※このインタビューは8月23日に実施しました



profile

尾崎 裕和 [おさき・ひろかず]

1980年、生まれ。2002年、NHK入局。2007年、ドラマ部へ。2019年からメディア総局のチーフ・プロデューサー。連続テレビ小説『エール』、大河ドラマ『鎌倉殿の13人』のほか、地上波ドラマで初めてアロマンティック・アセクシュアルの当事者を主人公にした『恋せぬふたり』（脚本・吉田恵里香）、死にたい気持ちに寄り添う『ももさんと7人のパパゲーノ』（主演・伊藤沙莉）などの話題作で制作統括を務める。

『虎に翼』と憲法

法曹の視点で 大切なメッセージを 読み解いてみた

弁護士 倉重 都

皆さん『虎に翼』口スになっていませんか？ 毎朝ドラマを観てから出勤していた私は、かなり寂しいです。「今までのリーガルドラマと全然違う」「リアル」「あるある！」など、弁護士の間でも評判のドラマ。寂しいと嘆いても戻って来ないので、『虎に翼』が私たちに伝えたかったテーマについて考えてみました。

男性だったら 問題にされてた？

両親、兄の家族、そして自分の夫と娘。3世帯で暮らしていた寅子^{ともしこ}でしたが、戦争によって兄と夫、病気で父を亡くします。彼らに代わって稼ぐため、幼い娘の優未を母親と花江（義姉）に任せ、法曹界に復帰。しかし仕事が忙しすぎて、家族との時間がおろそかに。家事は花江に任せきりで、食事は上げ膳据え膳。甘えたい年頃の優未に素っ気なく、逆に気を遣わせてしまう。お酒を飲んで夜遅く帰宅したり、優未と過ごす朝も二日酔いで起きられなかったり……。そんな寅子に家族はモヤモヤしながらも「スンツ」としています。うーん、寅子、ダメ。いくら外で仕事をして、家族を養っているとしても、家族が気を遣ってしまうような振

る舞いはダメダメ。その後、家族の不満が爆発。みんなからダメ出しされた寅子は「ごめんなさい」。

いやいや、ちよつと待って！ 寅子の家庭での立場や振る舞いは、ずっと長い間、男性だったら問題にもされてこなかったと思いませんか？

例えばちよつと昔の「社会的に活躍した男性」を主人公にしたドラマなんかで家庭のシーンになると、「おい、帰ったぞ」なんて言いながら、妻にカバンを手渡す。妻は子らに「お父様は疲れているのよ」などと釘を刺し、当のお父様は仕事でいっぱい。しかめつ面^{しかめつめん}で妻のお酌を受ける……。ここに、寅子が家族から受けたような不満や批判は全く描かれませんが、むしろ、妻は「内助の功」などと美談にされる。あるあるですよ。

なぜか女性だけ「家事をおろそかにしちゃダメ」「家族に柔らかに接しないとダメ」となります。私は、ここに大きな問題があると思いました。

もちろん脚本家は、この問題意識を前提に描いたのでしょう。家計を支えている。一家の大黒柱^{おおぐろはしら}だからといって家庭をかえりみないことは、それが女だろうと男だろうとダメだよね、って。寅子のように男女逆転させてみて、あれ？ そういえば、寅子が男性だったとしても、

もともとおかしかつたんだ、と気づかせようとしたのでしょうか。

そこにいるのに
見えていない

『虎に翼』には、実にさまざまな人が登場します。例えば外国籍の人、異性愛ではない人、身体に障がいを抱えている人など、マイノリティといわれる属性を持つ多様な人とそれぞれの葛藤が描かれました。ネット等では、「ここで、その問題提起必要?」「いろいろいすぎてお腹いっぱい」といった意見や批判もあったようです。

でも、私たちが暮らす社会という空間には、多様な人々が散らばり、悩みながら生活しています。見ない人には「見えていない」だけ。もともと、いろいろいすぎるのです。

普段の『人々の生活』をまるで写真や動画のように切り取れば、フレームの中に、マイノリティといわれる属性を持つ人々もガンガン映り込みます。その空間で、普通に笑っています。普通に怒って、普通にご飯を食べて、スーパーで買い物しています。それなのに、そのような人々は、「そのような属性を持つ人をテーマにした作品の中」だけにしか登場しないかのように誤解さ

れてしまいがちです。

スーパーのレジで自分の前に並んでいるおばちゃん、異性愛者ではないかもしれない。同性の恋人と暮らしているかもしれない。そんな想像力を持つことが大切です。そこに「ただいる」のに「いない」ことにされる、としたら、それはあなたに見えていないだけ、なのです。

自分にとっての幸せを
追い求める権利

それでは、『虎に翼』が全編を通して視聴者に伝えたかったメッセージとは何だったのでしょうか? 私は「個人の尊厳」と考えます。「個人の尊厳」は日本国憲法第13条1項に規定されています。

すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

この条文はドラマでも読み上げられ

ましたね。何よりもこの「個人の尊厳」が大事なのです。自分が自分らしく、自分の幸せを追求していいよ、それは100人いれば100通りあるんだよ、というものです。

こう言うと、「公共の福祉に反しない限り」の一文をあげて「人権人権っていうけど、全体の公益に反してはいけないでしょ」などと批判する人がいます。しかし、それは全く違います。日本国憲法の条文に何度か出てくる「公共の福祉」の意味は、公益ではありません。

法律も国家もすべて
人権を守るため

「公共の福祉」とは、簡単に言えば「他者の人権」です。自分が人権を持つと同時に、他者も人権を持っているのだ



profile

くらしげ・みやこ

幼少の頃から寅子のように「はて?」と、社会の男女不平等に疑問を感じながら育つ。大学卒業後、製薬会社に就職。営業職として10年以上勤務したが、三つ子の魂百まで。女性の差別問題に取り組もうと退職してロースクールへ。2018年、弁護士登録（第二東京弁護士会所属）。女性の人権問題を扱う事務所キャリアを積み、現在、りべるて・えがりて法律事務所所属。「明日の自由を守る若手弁護士の会」会員。

から、人権と人権が衝突したら、適切な調整が必要だよ、という意味なのです。分かりやすく言い換えると「公共の福祉に反しない限り」とは、他者の人権を必要以上に侵害しない限りです。

誰かの人権を制約できる理由があるとしたら、それは、他者の人権以外ないことになります。この世にあるすべての政策や法律は、人権を守り、人権同士を調整するため「だけ」に存在しなくてはなりません。国家も、人権を守るため「だけ」に存在しています。国家を守るために人権が犠牲になるなんてことは本末転倒。そんな国家なら、不要どころか有害です。『虎に翼』は、そういった意味も含んで「個人の尊厳」というメッセージを送ったのではないかと私は考えます。

『虎に翼』とYWCA

1932～1938

女性たちが
心も体も健やかに
生活を楽しめるように

©NHK

寅子のモデル三淵嘉子は、1932年から38年まで、駿河台の明治大学に学んだ。在学中、授業の前にプールで泳いだことが彼女の手記に残されている。『虎に翼』では、寅子の大学時代、33年のエピソードとして（ほんの数秒）描かれた。彼女たちが泳いだプールこそ、東京YWCAの女性専用温水プール。現在の「YWCAフィットネスウォ」の前身だ。『虎に翼』にあやかり、寅子・三淵が通った時代のプールに注目してみよう。

日本初の女性専用屋内温水プール

女性の自立を求めて1905年に設立された東京YWCAは、身体・知性・精神の成長を促す人間教育に取り組んだ。その一環である心身の健康を促進するため、さまざまなスポーツやレクリエーションを展開した。

1929年、当時最先端のスパニッシュ様式の駿河台会館を建設。地上5階建ての館内には、カフェテリア、ホステル、体操場、教室、礼拝堂……そ



クロールや背泳ぎなどの講習のほか、自由に泳げる時間も設けていた（1934年）

して地下1階に、まだ珍しかった飛び込み台のある温水プールを設置。「女性専用の屋内温水プール」としては日本初。世間の大きな注目を集めたという。会員のほか、働く女性、学生、地域の主婦や子どもなど一般に開放。一人ひとりに体格検査を行い健康管理に徹底し、泳ぎ方の講習や救命法、楽しい水

中劇など多彩なプログラムを実施した。ドラマで寅子が泳いだ33年には、延べ1万8338人が利用している。

オリンピックも合宿

同じ頃、飛び込み台で練習に励んでいたのが、大澤禮子。三淵と同世代だが、働きながらオリンピックを目指してプールに通っていた。後年、大澤は当時の様子をこう振り返る。

「使用料は、水着、タオル、小型の石けん一個付きで四十五分間、二十五銭だったと思います。（中略）風呂銭は五銭の時でした。正月三が日と日曜日以外は毎日朝十時から夕方六時までいつでも泳げたと思います」

石けんが付くのは、入水前に身体を洗って水質を保つため。現在も衛生管理の面から守られているルールだ。

この頃、オリンピック水泳女子選手の間でも行われている。32年ロサンゼルス大会、36年ベルリン大会の直前合宿でYWCAは、現地で選手が困らないように西洋のマナーや心得を教えた。ベルリン大会に選出された大澤もこの合宿に参加。ここで習ったダンスが友に役立ったという。

あなたのためのプールです

オリンピックが利用しても、市井の女性たちのためのプールであり続けた。体育部の竹内菊枝は「泳げない方、一般の方と同じ健康をとれぬ



スパニッシュ様式の駿河台会館。設計者ヴォーゲルは、関東大震災で焼失した初代会館を手がけたヴォーリスの盟友でもあった

方の為に力ある物（もの）であり度（た）い」と初心を述べている。また、当時の広告では「あなたのためのプールです」と呼びかけている。本記事のタイトルも広告文から拝借したものである。

安全・衛生管理の下、泳ぎが苦手な人も得意な人も、誰もが安心して自分を解放し、自分のペースで水に親しむ。水中のセーフスペースでもあった。

オリンピック選手だった大澤は、のちにYWCAフィットネスウォの指導者として長年にわたり飛び込みの魅力を教えた。駿河台会館は1990年に現在の東京YWCA会館に建て替えられた。先達の精神を受け継ぐ2代目プールで、今も多世代の女性たちが、思い思いに羽を伸ばしている。

憲法という翼を広げて

戦後初の女性弁護士・渡辺道子とYWCA

1947年5月3日、日本国憲法が施行された。その数日後、一人の弁護士が誕生した。「戦後初の女性弁護士」として知られる渡辺道子（1915～2010年）である。敗戦後の廃墟に立ち「私の残る人生は、平和憲法を守るために生きよう」と決意した道子は、一貫して人権の尊重、特に女性の人権擁護と地位向上に尽くした。一歳上の先輩・三淵嘉子と共に、生活と法律をつなぐ著書を上梓したこともある。一方で、生涯にわたりYWCA運動に深く関わった——。敗戦後、新しい憲法に平和への希望を見出したYWCAの女性たちは、その普及と実践に邁進した。道子をはじめ憲法という翼を得た女性たちのシスターフッドによって、現在につながる平和運動の礎が整えられたのだ。道子の教え子で、共に運動を推し進めた渡辺峯が語る“ストーリー”から、先達が大切にしていたものに思いを馳せよう。



渡辺 道子さんのこと

東京YWCA 渡辺 峯

去る1月23日、渡辺道子さんが94歳で召天された。

1976年から2期6年、日本YWCA会長を、その後89年から9年間、同理事長の任に当たられた。60年代には世界YWCA常任委員もしておられる。ごく若い時から法律家への志を立てられ、時代の種々の状況にも屈せず、初心を貫かれ、敗戦の年の11月、戦後初の司法試験に女性3人のうちの1人として合格される。

翌年、司法修習生として学ばれる傍ら、4月から母校の女子学院で週1度、講師として教壇に立たれるが、そのクラスで、私は初めて先生にお目にかかったのである。先生は3月に発表されたばかりの新憲法草案を取り上げ、戦争放棄・国民の権利、両性の平等など、溢れる熱意・喜び・希望と共に語ってくださった。それは、戦争中、国民学校（小学校）で軍国主義教育を受け、空襲被災・疎開の中で敗戦を迎え、帰京、転入校し、「世の中、ホントに真実なことなんてないのでは」と心に深い穴を抱えていた私に、明るい空に向かう窓を開けてくださるものだった。

それ以降の先生は、まさに東奔西走、新憲法・新民法の普及の旅に、そして1950年代から始まった反動の波と



1965年、長崎YWCAは「女性と法律」をテーマに講演会を開催し、大盛況を収めた。講師を務めた渡辺道子（前列左から2人目）と長崎YWCAの会員たち

の闘いに、YWCAに根っこを下しながら力を尽くされる。先生は人生の分岐点をしっかり見つめて歩んだ方だった。後年、ご自身の歩みを『新しい朝のひびき』として著しておられるが、そこには多くの貴重な心のお話が記され、特に地方農漁村の女性たちとの出会いが先生の歩みの分岐点に重要な関わりを持つことが分かる。

晩年を「ゆうゆうの里」で過ごされたが、何う度に、周りの方たちにとってもいい笑顔で「ありがと」と度々言われるのに心打たれていた。ご召天後、改めて前述のご著書を読み、最後の段落の冒頭の言葉にはっとした。

「今、また、私は、ほんものの赦された罪人として、新しい旅へ出発したいと望んでいる」先生は目の前のお一人ひとりの向こうに主イエスを見ておられたに違いない。

（日本YWCA機関紙2010年6月号より）

渡辺峯さんは2024年7月1日に、94歳で天に召されました

エンパワーするNGO



高校教師の
「虎がたり」

“あるがまま”に生きるって、やっぱりとっても素敵だ!

名古屋YWCA会員 後藤 静^{しずか}

「トラちゃんができるのは、トラちゃんの好きに生きることです。(中略) 僕の大好きな、あの何かに無我夢中になっている時のトラちゃんの顔をして、何かを頑張ってくれること。いや、やっぱり頑張らなくてもいい。トラちゃんが後悔せず、心から人生をやりきってくれること。それが僕の望みです」

連続テレビ小説『虎に翼』(NHK) 第40話より

出征を控えた夫、優三が寅子に残した言葉です。しばらくずっと、社会の慣習や自分の思い込みによってかけられた「呪い」を、優しく穏やかに解いてくれた優三さん! 一番、大切にしたいことを、一番、求めていたことを、一番、言ってほしかった人から受け取ったトラちゃん!

自分らしく生きる寅子の人生を認め、励ました優三の言葉は、私にとっても「心にしみる」「共感できる」そして、何よりも「元気をもらえた」一言でもありました。

私は高校の教員として、日頃から生徒たちと「互いの持ち味や特性を認め合える関係性」をつくっていくことを大事にしています。「私は私でいいんだ!」「自分が自分であっても大丈夫!」という自己肯定感は、「できないことも、やれないことも、たくさんあるけれど……」「いいところなんて見つからないけれど……」などの気持ちを、でもね、「そんな自分でいてもいいんだよ」「そんな自分が、大好き」と、自己の存在そのものを“あるがまま”に受け入れることだと思っています。

優三さんのように「大丈夫! オッケー!」と生徒に言葉をかけること。生徒たちから「せんせいの授業、楽しかった!」と言葉をかけられることで、私と生徒たちは“あるがまま”の心地よさを感じ合っています。

これからの人生をひとりの人間として生きていく私たち。『虎に翼』を通して“あるがまま”に生きるって、やっぱりとっても素敵! と改めて感じる私。私は、私でいいですよー。

ご協力ありがとうございました

賛助費

青木恵子 秋元靖子 浅田啓

阿部幸子 阿部方子 荒川知子

池上幸子 石橋さなえ 板橋俊子

井出都 伊藤真代 上村愈巳子

遠藤洋子 茨川光郎 大澤恵美子

織田光恵 加納美津子 河内常男

北原恵美 木下由美子 木村順子

桐村巨子 具島美佐子 小林喜美子

金剛静慧 坂上信子 阪本和子

佐藤マリ子 汐崎康子 杉本康雄

須部道子 諏訪昭子 武井真美子

武内富貴代 田中綾 田中暉彦

谷川いつみ 俵恭子 寺島順子

長尾眞理子 中西トク子 南部正人

仁木三智子 野崎誠一郎

野々村豊子 長谷川恭子

畑山みさ子 花盛静子 原紀子

比企敦子 松岡信子 三股恵美子

三股まさ子 三宅純子 三宅文子

吉田亜希

匿名

ピースメーカーズ募金

(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)

青木恵子 飯嶋祐子 板橋俊子

織田光恵 木村順子 桐村巨子

小林喜美子 齋藤知子 田中暉彦

谷川いつみ 俵恭子 堂前浩子

長尾眞理子 中川裕士 中平多恵子

難波幸矢 仁木三智子 野崎誠一郎

野々村豊子 山岡清二

学校法人九州ルーテル学院

学校法人女子学院

東洋英和女学院中・高部宗教委員会

匿名

災害時支援募金

(国内外の災害被災者支援)

秋元靖子 阿部方子 板橋幸子

板橋俊子 嘉屋陽子 桐村巨子

小林喜美子 清水靖子 武内富貴代

俵恭子 長尾眞理子 中西トク子

仁木三智子 野々村豊子

一般財団法人YWCA

匿名

(オリブの木キャンペーン募金)

青木恵子 池上幸子 板橋俊子

市川真美恵 井出都 上村愈巳子

梅林宏道 榎本みつ枝 尾崎敦子

川上哲 北原恵美 木村順子

朽木美奈子 小林喜美子 金剛静慧

坂上信子 阪本和子 佐藤マリ子

重松よし子 菅野真知子 田中展子

俵恭子 富岡美知子 中山美知子

野々村豊子 林育一郎 福田公子

三股恵美子 三股まさ子

(ウクライナ支援)

渡辺美智子

捜真女学校 奉仕委員会

公益財団法人東京YWCA

公益財団法人福岡YWCA

(バレスチナYWCA支援)

浅野勇介 阿部幸子 池上幸子

板橋俊子 市川真美恵 井出都

伊藤邦子 上野學 上野真由美

上村愈巳子 織田光恵 嘉屋陽子

川上哲 北原恵美 北原恵美

木村順子 桐村巨子 小林喜美子

金剛静慧 齋藤知子 坂上信子

阪本和子 菅野真知子 諏訪昭子

高橋りえ子 俵恭子 長尾眞理子

中西トク子 中村とよ子

仁木三智子 野崎誠一郎 野々村豊子

原紀子 比企敦子 福田公子

三股恵美子 三股まさ子 吉野恵子

渡辺美智子

日本キリスト教協議会 女性委員会

世界祈祷日献金

日本キリスト教団 光明国家教会

宗教法人日本バプテスト篠崎キリス

ト教会

中高YWCA 東北・北海道地区カン

ファレンス

東日本大震災被災者支援募金

池上幸子 石井敬子 板橋俊子

嘉屋陽子 桐村巨子 具島美佐子

小林喜美子 齋藤知子

佐藤マリ子 田崎桂子 俵恭子

長尾眞理子 仁木三智子

野崎誠一郎 野々村豊子

捜真女学校 奉仕委員会

匿名

(2024年6月16日~8月15日 敬称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121 Fax. 03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 実生律子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | にお名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp

無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。